

事務事業名	若者チャレンジ推進事業(課題解決人材育成確保)	所属部	政策企画部	所属課	政策推進課			
総合計画体系	政策名	〈I〉みんなで築くまち〈協働・行政経営〉	所属G	チャレンジ創生G	課長名	鳥谷 健二		
	施策名	〈01〉市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	武田 遼太	電話番号	0854-40-1011 (内線) 2333		
	基本事業	〈002〉まちづくりの人材確保	予算科目	会計	款	大事業	大事業名	企画総務管理事業
	目的	対象 市民 意図 まちづくりの課題を主体的に解決する。		項	目	中事業	中事業名	若者チャレンジ推進事業

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
社会起業家や地域貢献等を志す若い人材	雲南市のまちづくりに貢献してもらう
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 ( H23 年度～ ) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 ( 年度～ 年度 )	地域課題解決を実践する若手人材の育成確保を進めるため、起業プランや地域活性化プラン等の実現を目指す若者を掘り起こし、プラン実現のための企画・実践をサポートする「Seedラボ」や若手人材掘り起こしとネットワーク化を進める「定例勉強会」を実施する。また、全国の先進自治体や都市圏NPOと連携協働し、都市圏で地方起業に関心ある人材とのネットワーク構築や人材誘致をすすめる。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R4年度実績(R4年度に行った主な活動) ・起業型地域おこし協力隊募集seedの企画・運営 ・スペシャルチャレンジホープ伴走支援 ・若者チャレンジ支援コーディネーター(CN)による若者支援 ・ローカルベンチャー推進協議会との連携・協働による都市圏人材とのネットワーク構築及び人材誘致 ・委託業務契約等	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?) 塾卒業生のフォロー体制の構築、プラン実践に向けたチャレンジ資金の提供、定例勉強会の開催などの改善に努めている。都市圏NPOとの連携により、地方創生に関心ある企業や地方起業を志向する人材(若者)とのネットワークも広がっている。また、新たに起業型地域おこし協力隊制度を活用した人材誘致に取り組んだ。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R2年度(実績)	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(計画)
ア 課題解決型人材の増加数	人	130	116	129	150
イ 課題解決ビジネスの他地域展開数	地域	9	13	8	10
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R4年度決算)		② コストの推移		単位	R2年度(決算)	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(計画)
・旅費	35千円	財源内訳	国庫支出金	千円	12,821	11,991	11,176	11,836
・委託費	10,329千円(運営・CN配置)		県支出金	千円				
・委託費	4,301千円(HPサイト構築)		地方債	千円				
・使用料	462千円(サーバー使用料)		その他	千円	12,822	6,945	11,211	11,996
・負担金	7,260千円(ローカルベンチャー協議会)		一般財源	千円		5,046		
合計	22,387千円		事業費計	千円	25,643	23,982	22,387	23,832

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	幸雲南塾では、塾生同士の連携が生まれ、お互いのリソースを共有し合うことで多くの実践が生まれた。都市圏のNPOや起業家人材とつながり、塾生の事業の成長や意識の変化があったことに加え、雲南に関わりをもつ都市圏人材が増えつつある。ソーシャルチャレンジサイトの構築を行い、中間支援組織においても情報発信を行うことが可能となり、様々な情報提供・周知が可能となった。
② 事業実施するうえでの課題	幸雲南塾の卒業生が地域内で活動しているが、個々の活動が中心で、卒業生同士の世代を超えたつながりや塾生以外のつながりが広がりにくく、学び合い・成長する場を作っていく必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	令和5年度から、Seedラボとして、地域内の社会起業家を中心に起業家クラスターを形成し、起業家同士での学び合い・成長の場を作っていく、起業家の波及効果を高めていく。